

〔柳亭筆記〕<sup>三</sup>蚊帳に匂袋を掛る事并蚊屋釣初<sup>略</sup>中

二重蚊屋。冠附江戸雀<sup>正徳年</sup>印本。心<sup>冠</sup>よく螢をはなす二重蚊屋

〔海録<sup>八</sup>〕蚊帳の釣様右へ今のごとく紐をもてつる事、且而見及ばず、加賀守貞助雜記、條々聞書等、棹を以つる事みえたり、又今のごとく日毎に撤することにてもなし、吉日をゑらびてつり初、吉日を撰びて撤する也、そのつり様、今江都に絶て見えざれども、田舎には古のごとく、棹を以つるとぞ、つくしの人にあひて聞つたへたり、又如此つるかやは鬮ごとくに耳あり、<sup>略</sup>圖美成云、蚊帳をつる事、本書のごとく古るく見えず、ゑがけるものかつてなし、狩野永徳かさとり蚊帳紐にてつりたり、されど乳ごとくに紐を通せり、その比のさま見るべし。

〔年中恒例記〕四月

今月中吉日に御蚊帳つり始らる也、伊勢同名兩人參候てつり始候同おろし申時も、兩人參ておろし候也、毎日之あげおろしは、女中上らふ又は同朋の御役にて候七打候へば、必御蚊帳をおろし申され候也、つり始申候時、三御盃參候て、かげにて伊勢同苗頂戴之也。

〔教言卿記〕應永十三年四月十九日己卯、蚊帳釣之、目出々々、同十四年四月九日癸巳、自今日蚊帳、重能資能ツル也、珍重々々、

〔鈴鹿家記〕寶徳元年卯月九日戊寅、花園殿ヨリ葛籠壹荷蚊<sup>ヤ</sup>一張、へつとり一枚、<sup>略</sup>御本所エ參、俱時、定好蚊ヤ一張宛拜領、

〔在盛卿記〕長祿二年四月四日辛酉、鳥丸殿へ注進、姫君様御かちやうつりはじめの日、

今日四日<sup>時か</sup>の<sup>の</sup>と<sup>の</sup>と<sup>り</sup>、五日<sup>時みづ</sup>の<sup>の</sup>と<sup>の</sup>と<sup>り</sup>、

四月四日

春<sup>ハ口部</sup>次<sup>ハ次</sup>可<sup>ハ</sup>被<sup>ハ</sup>釣<sup>ハ</sup>始<sup>ハ</sup>御<sup>ハ</sup>蚊<sup>ハ</sup>帳<sup>ハ</sup>目

刑部卿あき盛